

縄文ふるさと大使

がん患者支援の 大久保さん委嘱

茅野市

茅野市は15日、がん患者支援団体「5years（フアイブイヤーズ）」代表理事で同市宮川出身の大久保淳一さん（52）＝東京＝を、「市縄文ふるさと大使」に委嘱した。大久保さんは市役所で開いた委嘱式で、がんと闘いながら

米国投資銀行で働いた経験を生かし、「ビジネス分野で市に貢献していきたい」と抱負を述べた。

大久保さんは諏訪清陵高校（諏訪市）を卒業後、名古屋大と同大学院に進学。1999年から同投資銀行で働いていたが、42歳だった2007年、精巣がんを発病。腹部や肺、首まで転移したが手術で一命を取り留め、復職を果たした。退職後の15年にがん患者支援団体を設立。発病前から趣味だったマラソンに出場したり、自身の経験を講演会で語ったりしている。

大使とふるさと文



柳平市長から委嘱書を受け取る大久保さん（右）

「大使」の委嘱書や名刺を柳平千代一市長から受け取った大久保さんは、「パソコンと通信環境があれば、（IT関連など）第3次産業なら地方で仕事ができる。将来的には東京から仕事を持ってきたい」と話した。